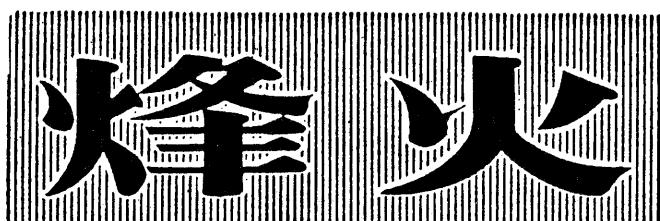


☆帝国主義の侵略反革命、社会帝国主義の武装反革命を粉碎し、世界革命戦争—世界プロ独を組織する世界単一党を国際階級闘争の最前線に組織せよ！

1981年
2月20日
第335号
編集発行人 高木一夫
一部 200円



共産主義者同盟（全国委員会）

- 大阪戦旗社 大淀区本庄東2丁目2の31
とみやビル15号 Tel (06) 371-3706
- 郵便振替 大阪—63333 高木一夫
- 銀行口座 第一勧銀 515-1058150 高木一夫

労農連帯
の旗高く

ジェット決戦に勝利せよ！



写真は77年12月2日の闘争突入総決起集会
(主催・動労千葉地本 於・千葉鉄局前)

全国のたたかう労働者人民諸君！

八一年に入り、敵帝国家権力の戦後史を画する攻撃は、ますますし烈の度をくわえている。安保・自衛隊強化、改憲策動、大衆奪取の嵐が人民におそいかついている。それは戦争準備、ファシズム準備のいわば地ならしともいうべき性格をもつていて。他方、これに正面から対決するたたかいで、中間連合政府派の敵対をはねのけて、三里塚を一方の極とし、労働戦線を中軸にして開始されている。三月の三里塚ジェット決戦は、日本階級闘争と日本労働運動の前進にとって、きわめて大きな位置を確立しながら、いま全国のたたかう労働者人民の手によって準備されている。

また昨年、韓国光州蜂起やボーランド労働者のストライキにみられた国際階級闘争の新たなうねりが、米ソの抗争激化、中国路線の破壊などの事態を背景にして、ひきづき持続・拡大している。われわれは二・三月の激闘を、三里塚ジェット決戦を頂点に、改憲、安保、日韓、春闘を軸にしてたたかいぬき、この渦中から広範な人民の政治的統一戦線の礎をしつかりとつくりだしていくことを、すべてのたたかう労働者人民諸君によびかける。

ともに決起せん！

八一年初頭の国際的動向

資本主義の比較的安定した時期は過ぎざり、「嵐のような時代」が訪れようとしている。社会の平和的発展という幻想から人民を目覚めさせること、帝国主義的排外主義の呪縛から人民を一刻も早く解き放つこと、これが現在の時期におけるレーニン主義

義戦術のもつとも原則的な基礎である。かかる観点からわれわれは、米帝レーガン政権の登場、ソ連社帝のボーランド軍事介入の策動、中国「林彪・四人組裁判」判決、南朝鮮における金大中裁判など、ひきつづく世界史の激動局面、国際的諸事件の本質

をあきらかにし、ブルジョアジーのデマ宣伝を粉碎して、帝国主義打倒・社会帝国主義打倒・中国路線止揚の国際主義の旗をかかげることが、ますます必要となつてきていると考える。以下、前記四つの国際的諸事件についていこう。

● レーガンの政策

本年一月二〇日、米大統領に就任したレーガンは、①経済的危機を解決するための連邦政府の規模縮小と大巾減税による民間企業の活力増大、②自由の敵から平和を守るために十分な力の維持、という基本政策を打ちだした。「強いアメリカ」を実現すると宣言した。それは、ならぶものない圧倒的な軍事力と経済力を有し、世界に君臨した五〇年代（六〇年代のアメリカの再現を夢想するものである）だが当時の「強いアメリカ」を支えた諸条件はまったく変化している。世界資本主義の相対的安定期は終えんし、過剰生産恐慌の波が全世界をおおい、アメリカ資本主義は八〇年に実質経済成長率マイナス〇・三%といり深刻な不況と、年率十二%のインフレにみわってきた。不均等発展にもとづく米帝の経済的地位の低下と、帝国主義間対立の激化が、そして全世界の反帝民族解放闘争の前進が、米帝の足もとをゆるがしつづけている。「強いアメリカ」を標榜するレーガンの政策は、世界の安定を回復するものではありえず、対ソ抗争、日・西欧諸帝との対立関係を激化させ、資源・領土略奪と民族解放闘争虐殺の野望をむきだしにしてしつつ、全世界に戦争の火種をまきちらすものにはならない。

さる一月九日、ハイグ次期国務長官はレーガン政権の世界戦略の基調が、「ソ連の世界的な進出を核兵器を使ってでも阻止することにある」と表明し、さらに一月二八日、ジョンソンズ米総合参謀本部議長は「多発報復戦略なるものを提唱した。それは「紛争が発生した場合、米国は優勢な軍事力を攻撃地點ばかりでなく、世界各地のソ連の多くの弱点に使用する」「とくに中東・ペルシャ湾岸における米国の死活的利益をソ連が侵せば、同地域との対決を世界戦争をも辞さない」と、ソ連との対決を世界戦争をも辞さないとい調子でうちだすものであった。そしてこの戦略を保障するものとしてレーガン政権は、次期ICBM・MXミサイルや中性子爆弾の開発など核・通常両兵力でのソ連にたいする優位の確保と、日帝・西欧帝への軍備分担増の実施をはかるとしている。これらは「軍事力を行使しても中東油田地帯の権益を確保する」としたカーネードクトリンを、よりいつそう強化、徹底化することをねらうものである。

● ソ連のボーランド介入

ソ連社帝は昨年末以降、「連帶」を中心と結びついた反社会主義分子」と公然と規定はじめ、「社会主義の防衛」を名目にボーランドへの軍事介入の機をうかがいつづけてきた。本年二月に入るやソ連社帝は、「ボーランドの労働者階級の大部分は反革命に反撃を加える措置がとられることを期待している」（二月四日）とのべ、ますます軍事介入の策動をつよめきていく。

ではボーランドのたたかう労働者は、ソ連のボーランドの経済的政治的支配にたいするまつたく正當な一大反撃であつた。それだけのボーランドの経済的政治的支配にたいして、全土的決起は、ソ連社帝とその代理人たるのボーランドの経済的政治的支配にたいしてある。昨夏以来のボーランド労働者の大衆的・全土的決起は、ソ連社帝とその代理人たるのボーランドの経済的政治的支配にたいして、ソ連のいうように反社会主義分子なのか。否である。おかれつづけられるならば、この支配をつき破るプロレタリアートの反抗、プロレタリアートの階級闘争の発生と発展が不可避であるといふ歴史的真理を、力強くしめたものであった。ボーランド労働者の決起には、労働者国家における階級闘争の前進、社会主義革命の前進にむかう萌芽がはらまされている。

「社会主義の防衛」をかけたソ連社帝が、じつは社会主義の前進にたいする真向うから、の敵対者であることを、ボーランドの激動は雄弁にものがたつてゐるのである。ソ連社帝のボーランド軍事介入の策動は、「ボーランド革命」を虐殺し、東欧諸国にたいする自己の経済的政治的支配体制を、暴力的に維持・防衛せんとするものにはならない。

全世界の労働者は、持続・拡大するボーランド労働者のたたかいで連帶し、ソ連社帝のボーランド軍事介入策動を粉碎せねばならない。

● 金大中氏裁判

かつて中ソ分裂をおして、ソ連社帝にたいする真向うからの批判者として登場し、民族解放闘争の「大後方」を形成してきた中国共産党は、急速に自己の国際的な社会主義の権威を失いつつある。

一月二六日、「林彪・四人組裁判」は、江青、張春橋にたいする死刑（執行猶予二年）、終身政治権利剥奪などの判決を宣告し終結した。また裁判に並行して、華國鋒が毛沢東すべて派の立場を堅持し文化大革命否定の方針に反対しつづけた」という理由をもつて、日韓連帶をもとめるわれわれにとって、問題はいつそりはつきりとしたものになつた。告全員に上告棄却を宣告し、金大中氏への死刑判決を確定した。そしてその後、韓国全斗煥政権は金大中氏の無期懲役への減刑を決定した。この判決は、第二第三の光州蜂起へ前進する南朝鮮人民への見せしめであり、南朝鮮階級闘争を根絶しさらんとする全斗煥とこれを支える日米帝の野望につらぬかれたものである。また無期懲役へのペテン的減刑措置は、全世界に広がった金大中氏救出運動を鎮静化させ、国内融和をはかり、この機にいつきよに日米韓反革命体制、日帝・全斗煥体制の強化をすすめようとする攻撃である。同日、日帝・鈴木は「日韓両国間で問題はなくなつた」とのべて、日韓定期閣僚会議開催の早期着手など、全斗煥体制への全面的擁立の強化を公言し、また二月二日に訪米した全斗煥はレーガンに忠誠を誓うとともに、「韓国は日米の防衛のとりで」とのべ、自己の与えられた反革命的役割りを明言してはばからなかつたのである。この日米帝とカイライ政権の動向に抗するかたちで一月三〇日、ソウルで清溪被服労働組合の労働者たちは、反共御用労働機構にたいする大衆的な抗議闘争をかちとつた。

日韓連帶をもとめるわれわれにとって、問題はいつそりはつきりとしたものになつた。抑圧民族に属するわが日本プロレタリアートが、光州蜂起にしめされる南朝鮮人民に連帶推進するため文革支持派を党内から一掃し、近代化路線にたいする反抗とサボタージュを鎮圧しようとする政治的意図につらぬかれたものである。

の眞の主人が日米帝であり、南朝鮮人民のたたかいがその根底においてもつとも鋭い反日米帝のたたかいであることを否定し、さらに南朝鮮においてプロレタリア革命の本格的成熟がはじまっていることをおおいからしてい。彼らは南朝鮮人民に、あくまで「現政権の民主化」にとどまるよう強要せんとすることによって、日帝を免罪し、眞の日韓連帯のたたかいに敵対を深めているのである。

以上八一年初頭の四つの国際的諸事件、諸動向は、米ソを中心とした帝国主義間抗争がますます激しさを増し、これを背景にして、全世界から社会主義にむかう国際階級闘争の新たなりが成長しはじめていることを、くつきりとしめしている。それは、中国路線の破産の対極に生みだされた新たな胎動である。全世界のプロレタリアートは、帝国主義打倒、社会帝国主義打倒、中國路線止揚の旗を、国際階級闘争の新たな時代における実践的團結の基準としてかかげ、自國の帝国主義、自國のブルジョアジー、自國のカイライ政権にたいするたたかいを、海を越え、国境を越えた世界社会主義にむかう单一のたたかをしてつくりだしていくかねばならない。

日帝の戦争と

ではつぎにわれわれは、自國帝国主義＝日帝の動向にふれておこう。

● 矛盾深める日本資本主義

世界資本主義の危機のなかで、深刻な不況にみまわっている米帝・西欧諸帝にくらべ、日帝は八〇年実質経済成長率五・一%という相対的安定性をしめしてきた。その直接の原因は、日帝の自動車、船舶、鉄鋼、家電などの中輸出競争力が、他帝国主義を圧倒していることにもとめられる。日本の八〇年における貿易収支は、対米国六九億ドル、対E.C.八八億ドルと史上最高の黒字を記録した。とりわけ対米自動車輸出は二四七万台にのぼり、米自動車産業の三一%の減産の一要因ともなっている。この日帝の輸出競争力を支えているのは、他帝国主義をはるかにうわまわる労働者の搾取と収奪であり、独占企業の強蓄積である。日本ブルジョアジーは七三年の石油ショック以降、減量経営をとなえて大量解雇を強行し、合理化・省エネ・人員削減のための設備投資をつみかさね、労働生産性を飛躍的に向上させてきた。そして他方で、八〇年の実質賃金伸び率マイナス〇・九%という低賃金を労働者にしいることによつて、ぼう大きな利潤をあげてきた。また、市場再分割戦における優勢な地位を拡大・強化するために海外

への資本投下を急ピッチですすめ、鈴木のASEAN歴訪にしめされる。ように、アジア・大洋圏を自己の権益圏として確保しようとしてきた。こうした国内内外にわたる搾取と収奪が、日本資本主義の高い輸出競争力をもたらしてきたのである。

だが日本ブルジョアジーは、この相対的安全性、優位性がいつまでもつづくと考えているわけではない。あいつぐ日本車輸入規制など他帝国主義の激しい抵抗、アジアをはじめとした国々での反日闘争の高まり、そして国内の労働者人民の自然発生的憤激などに、二重三重に日帝がとりまかれいくことは不可避免である。そしてなによりも世界資本主義をおおう過剰生産恐慌の波から、日本資本主義のみが自由であることは不可能である。日帝はだからこそ先を読み、日々増大し、せまりくる危機と矛盾の帝国主義的解決の道として、こんにち侵略反革命戦争とファシズムの準備を急ピッチでおしすすめはじめたのである。

● 安保改訂・改憲策動

日帝の侵略反革命戦争とファシズム準備の戦略的環を占めるのは、安保改訂と改憲攻撃である。われわれはこれにたいする人民の政治的決起を全力あげてつくりだしていくかねばならない。

第一に、すでに八〇年代の政治日程にのぼせられた安保改訂の攻撃について。昨八月二九日の「日米セミナー」の席上、三原自民党安保調査会会長は安保改訂の必要性をぶちあげ、安保の適用範囲を「極東地域」から「印度洋・ペルシャ湾」にまで拡大すること、また現行安保の「片務条約」という性格を解消して、日米安保を「日米の真に対等な」侵略反革命同盟に再編・強化することを提唱した。八〇年代の安保改訂は、七〇年代の日米安保を、侵略反革命の戦争遂行体制といふ性格をいっさい変更することなく、安保に占める日帝の自立性を増強し、日帝獨力でも実際に戦争がおこないうるよう飛躍的に強化していくこりとするものであり、一般的に米帝の肩がわりをするといつたものではまったくない。日帝の側からすれば八〇年代の安保改訂は、中東油田地帯から日本にいたるシーレンの軍事的確保、東アジアを中心とする日帝の植民地主義支配の軍事的確立、ソ連社帝との軍事的対抗の強化など、日帝独自の帝国主義的野望にもとづいてもくろまれているのであり、これを日帝軍事力の増強と日米軍事同盟の強化をつうじて実現していくこりとしているのである。二月はじめに発覚した竹田統幕議長の雑誌インタビューでの発言——「専守防衛では国民の安全は保障できない」「防衛費がG.N.P.1%では何の意味もない。三%

● 安保＝日韓闘争

全国のたたかう労働者人民諸君！
国際階級闘争の新たなりと連帯し、安保強化、改憲攻撃と総対決し、二・三月闘争を日韓・三里塚・春闘を軸に全力でたたかいぬくことをわれわれはよびかける。

第一の任務は、金大中氏救出運動の成果を八〇年代日韓闘争の前進へと発展させていくことである。「金大中氏無期懲役減刑措置」をもつて韓国情勢は新たな段階をむかえ、日米帝は公然と全斗煥政権の強化にふみだした。われわれはいま昨秋來の金大中氏救出運動の高揚をうけつけ、日帝＝全体制打倒へとむかう日韓闘争のさらなる発展をかちとるべきと

命であつて奴隸的服従とか苦役ではない（だから徴兵制は憲法十三条や十八条に違反するものではない）など——は、安保・自衛隊強化、戦争準備にかけたブルジョアジーの総意を代弁しているとみるべきなのである。

第二に改憲策動について。自民党は八一年運動方針において「自主憲法制定」をうちだし、本格的に改憲へとすすむ構えをしめしている。昨年來、ブルジョアジーによる上から

の攻撃的な改憲をめぐる論争は、きわめて急速に進展した。昨七月、外務省は「国連の平和維持活動」のための海外派兵は可能と表明。これをうけて政府は、イラン＝イラク戦争のぼつ発にさいし「邦人救出のための海外派兵は合憲」、「壊滅的威力をもつものでないか明し、憲法九条の解釈を極限的に拡大してきた。そして他方で、法相奥野らを先頭に大大きり核兵器も所有しうる」と矢張りやに表

明し、憲法九条の解釈を極限的に拡大してきた。そして他方で、法相奥野らを先頭に大大きり核兵器も所有しうる」と矢張りやに表明や、二月七日の「北方領土の日」行事にたゞする社説をふくむ超党派的取り組みにみられるよう、改憲論議の土俵に議会内野党のすべてをひきずりこんだことに、もつともよくしめされている。またこんにち進行する改憲攻撃は、自衛隊の核武装、海外派兵、徴兵制を可能にする第九条改悪に焦点を定めているが、それは天皇の元首化、基本的人権の制限ではつきりと射程に入れたものである。

ブルジョアジーは「戦後民主主義ではもはや国を守ることはできない」との露骨なキャンベーンをも組織しつつ、改憲問題を軸にして広範に排外主義の土壤を形成することをねらっている。改憲攻撃は、日帝のファシズム準備のための強力な柱をなす攻撃である。

烽火

きを迎えていた。このために必要な原則的観点、深化すべき課題は何か。

その第一は、安保Ⅱ日韓闘争を八〇年代日本階級闘争の戦略的闘争としてしっかりと位置づけ、この持続・高揚・発展に力をつくすことである。われわれにとっての日韓闘争とは、①自國帝国主義Ⅱ日帝の朝鮮侵略反革命との闘争、②朝鮮階級闘争との連帶、③自國内の排外主義・社会排外主義との闘争という三側面をもつたたかいをとおして、日本プロレタリアートの國際主義を実践していく闘争である。われわれはこのたたかいのなかで日本プロレタリアートが、自國の資本主義を帝國主義として認識し、自己の属する民族を抑圧民族として自覚し、自國帝国主義の他民族抑圧に反対し、自己の解放が被抑圧民族プロレタリアートの階級闘争との結合と、自國帝国主義打倒のたたかなしにはありえないという確信を形成することに、大きな力をさかねばならない。

その第二は、さまざまな課題をめぐってたたかわれる日韓連帯闘争のなかで、南朝鮮人民のたたかいで民族解放・社会主義への発展に連帶していくことの重要性をつきだしていくことである。光州蜂起は、人民の暴力に依拠した本質上プロレタリア権力の樹立の問題を、現実問題にのぼせた。いまや南朝鮮においては、広範な人民の民族的民主主義的闘争にさえられた民族解放闘争と、プロレタリア階級に主導される社会主義革命のためのたたかいで、意識的にむすびつけるプロレタリア革命の準備が、本格的に問題になりはじめている。この地平への連帶を組織することがますます重要になってきているのである。

第三に、日韓闘争における社共・右翼日和見主義者たちへの批判をより強化し、大衆闘争の内部から彼らとの政治的分岐を組織していくたたかいで強めていくことである。日韓闘争から、朝鮮人民を搾取・抑圧・支配する自國帝国主義Ⅱ日帝打倒の内実を欠落させるならば、それは実際に排外主義の陣営を利用するものになるであろう。社共は体系化された社会排外主義者として、日帝免罪、すなわち排外主義によつて日韓・日朝プロレタリアト人民の階級的連帶に分断をもちこんでいる。これを根底から批判、粉碎することは、今後の日韓闘争の発展にとって不可欠の任務である。

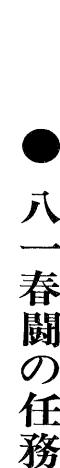
第二の任務は、労農連帯の旗をかかげ、三

里塚三月ジェット決戦への大衆的決起をつくりだしていくことである。

● 三里塚ジエット決戦



● 八一春闘の任務



三月ジェット決戦の本格的攻防がいよいよ開始された。昨年十二月、政府は三里塚空港のジェット燃料貨車輸送「暫定三年」の閣議決定をみずから反古にし、新たに「二年十月延長」なる閣議決定をおこなった。これも動労本部一革マルは、当局に呼応して動労千葉破壊を画策し、一月三〇日には「千葉地本再建集会」をデッチあげようとした。たかう動労千葉はこれらの敵対を粉砕し、三月貨車輸送延長阻止の決意もかたく、一大ストライキ闘争をうちぬこうとしている。

昨年十月の対政府総行動をとおして三里塚闘争は、日本階級闘争の不抜の先端拠点としての位置をさらにふみかためてきた。反対同盟は組織を強化し、諸階級層人民のたたかいでの交流と連帶を深め、そして日韓連帯闘争、反原発闘争、あるいは労働戦線でのたたかいなどが三里塚闘争を結び目に合流し、これらのが力が日帝Ⅱ鈴木政権にたいする人民の一大政治攻勢線をつくりだしている。われわれは三月ジェット決戦のなかで、三里塚闘争のもつこの全人民性をさらに発展させ、三里塚をめぐるさまざまな人民の決起を、日帝の戦争とファシズム準備に対決する「広範な人民の政治的統一戦線」の建設へと統合していくなければならない。

また三里塚ジエット決戦は、進行する労働戦線の右翼的再編と対決し、労働運動の階級的再建をめざすたたかいである。同盟・JC、総評民同に代表される日本労働運動内の右翼的潮流は、公然と「日本資本主義の危機の救済」を叫んで労働戦線の右翼的再編をおこすすめ、労働者を産業報国会運動の沼地へとひきずりこもうとしている。国鉄七万四千人合理化と対決し、ジエット・ストライキに敢然と決起せんとする動労千葉のたたかいは、産報化に抗する全国の戦闘的労働者のたたかいの最前線の一翼を占めている。

いまこそすべてのたたかう労働者人民は、日本階級闘争と日本労働運動の未来をかけて三月ジェット決戦勝利・動労千葉支援・二期工事着工阻止に総決起しよう。

お知らせ

本号より「烽火」紙代を現行通常一部 150 円から、200 円に値上げします。よろしく御協力を。

購読料
■ 10回分………2000円
■ 郵送
10回分………3000円
20回分………5000円

第三の任務は、八一春闘をたたかく、労働戦線の右翼的再編に反撃し、階級的労働運動の流れを強化していくことにある。
日経連は八一春闘を前にして昨年十二月、「生産性基準原理の徹底と官公部門の効率化を」と題する報告書を発表し、「生産性向上の範囲内に賃上げをおさえる」「(八一春闘での賃上げは)むしろ八〇春闘より低くてもいいと考えている」(日経連・大槻)なる態度をうちだした。これをうけるかたちで、総評、同盟など労働四団体は、「経済整合性論Ⅱ賃

金自肃路線」にもとづいて、賃上げ十%の統一要求基準をはじめて公式に設定した。事態はあきらかである。日本資本主義の危機を救え!労働者大衆に犠牲をおしつけよ!というブルジョアジーと労働貴族たちのゆるしがたい大合唱がはじまっているのである。そしてこれは、戦争とファシズムへの労働者の动员II労働運動の産業報国会化への道に、まつづくつらなつていてるのである。

先進的労働者にとって、ますます問題はつきのように立てられねばならない局面がおとずれている。社帝派既成労組指導部に一片の幻想を抱くことなく、彼らを労組指導部の位置からひきずりおろすこと、これにかわる労働運動の新たな革命的指導部をうちたてていこと、これである。そして先進的労働者は右再編の逆流に抗して八一春闘を、職場末端からの大衆闘争とストライキの組織化、大巾賃上げ獲得、未組織労働者の組織化、あるいは官公労部門の一大合理化攻撃とのたたかいなどを、大衆の先頭に立つてたたかうねかなければならない。

さらにわれわれは、これらのたたかいでより強力に推進するためには、広範に存在する労働者の憤激を糾合し、散在する先進的労働者の反撃を統合する労働運動における統一戦線が、どうしても必要だと確信する。総評労働運動の歴史的破産のなかで、産業報国会化に對決する広範で強固な統一戦線の形成をともにおしすすめていくことを訴える。この苦闘をとおして先進的労働者は、自己を労働運動の新たな指導部へときたえあげ、革命党建設と結合し、日帝打倒、プロ独立立をなう社会主義革命の戦士への道をふみだしていかねばならない。(P.8. 別掲の春闘アビール参照のこと)

すべての労働者人民諸君!

わが同盟は八一年新年号論文において、広範な人民の政治的統一戦線の建設をよびかけた。今春二・三月われわれは、前記三つの闘争課題を軸に、労働運動における、学生運動における広範な人民の政治的統一戦線を展望した具体的共闘と統一行動を、組織するために奪闘する。すべての諸君がこのたたかいで結集されることを要請する。

共産主義者同盟(全国委)とともに、八一年春の激闘へ進撃せよ!



京都で日韓連帯学生行動

学生運動に新たな息吹き

立大、大谷 義に抗し、日韓連帯を中心スローガンとする共同声明
月蜂起連帶
持／排外主義
大、産業大
韓国民主化
闘争断固支

八〇年十二月二三日、折からの
金大中氏への最終審死刑判決一死
刑執行の危機という緊迫した状況
下で、京都七大学の学生大衆の統
一行動が組織された。

京都市内一三条河原には、同志
の対韓侵略を許すな！日韓定期閣
僚会議阻止／日米韓軍事一体化反

りしきるみぞれをついて結集した。
各大学での日韓連帯闘争へのとり
くみの報告と決意表明ののち、金
大中氏死刑執行絶対阻止！在日韓
国人政治犯無条件即時釈放！日帝
ささらに八一年に入つて、一月一
五～一八日にわたり「金大中氏ら
を殺させるな！在日韓国人五氏へ

三月決戦への戦闘宣言 発す

1
24

ジェット燃料輸送延長阻止！動労千葉支援！

動労千葉、全国からこの日千葉
に結集した全国の労働者人民のた
たかう意志は不動のものとなり、
三月三里塚ジェット闘争が、何ん
としてたたかわれなければならな
いかを鮮明とした。

集会は会場通路にまで参加者が
埋まるほど、文字通り密集した雰
囲気のなかで開始され

た。司会あいさつ、開
会宣言に引きつづいて

主催者を代表して動労
千葉関川委員長は、「す
でに当局の布施組織部
長への解雇発令、延長
提示にたいし二波にわ
たる減産闘争をたたか
いぬいた。当局、革マ
ルの闘争破壊、組織破
壊攻撃を粉碎し、全
人民闘争勝利、三里塚
二期着工阻止の水路を
ジェット闘争勝利から
切りひらいていく」
とたたかう決意がのべ
られた。つづいて反対
同盟を代表して石橋委
員長代行は政府公団の
今秋の、C滑走路着工
策動にたいし、断固と



輸送延長許すな！会場を搖がす
三千四百の大シュプレヒコール

がゆり動くんだという労働者本来
のたたかいをやる」と三月闘争の
方向を提起し、二月には、スト破
り助役機関士導入攻撃とのたたか
いに突入するという決意を明らか
にした。

たる労働者がその気になれば社会
して粉砕するという決意をあきら
かにした。そして北原事務局長
から基調提起のなかで、二・一八
千葉鐵道管理局抗議闘争、成田で
のストは、単に燃料を空港に運ば
れ、夜の「金大中氏らを殺すな！
京都緊急連絡会議」の集会へと合
流していくた。

一・二四集会は、三月ジェット闘
争へむけた闘争陣型をうち固めた。
すでに攻防の幕は切つておとされた。
日帝国家権力、革マルの敵対を粉碎
し、三・一スト支援現地大闘争へ
し集会は終了した。

烽火が上げられた。三里塚
反対同盟と動労千葉の共催での三
里塚ジェット燃料貨物輸送延長阻止
一・二四総決起集会が、会場の千
葉市民会館に、三四〇〇名の労働
者人民の結集のもと、決戦前段集
会にふさわしい、高揚と熱氣のな
かでたたかいとられた。この総決
起集会の成功によつて、反対同盟
・動労千葉、全国からこの日千葉
に結集した全国の労働者人民のた
たかう意志は不動のものとなり、
三月三里塚ジェット闘争が、何ん
としてたたかわれなければならな
いかを鮮明とした。

集会は会場通路にまで参加者が
埋まるほど、文字通り密集した雰
囲気のなかで開始され

た。司会あいさつ、開
会宣言に引きつづいて

主催者を代表して動労
千葉関川委員長は、「す
でに当局の布施組織部
長への解雇発令、延長
提示にたいし二波にわ
たる減産闘争をたたか
いぬいた。当局、革マ
ルの闘争破壊、組織破
壊攻撃を粉碎し、全
人民闘争勝利、三里塚
二期着工阻止の水路を
ジェット闘争勝利から
切りひらいていく」
とたたかう決意がのべ
られた。つづいて反対
同盟を代表して石橋委
員長代行は政府公団の
今秋の、C滑走路着工
策動にたいし、断固と

方針が明らかにされた。つづいて
基調提起に立った動労千葉中野書
記長は、「労働運動の右傾化、權
力の反動攻勢に抗し戦闘的階級的
労働運動の再建を／社会の主人公
たる労働者がその気になれば社会
して粉砕するという決意をあきら
かにした。そして連帯のあいさつに
反対同盟の決意表明に立つた。そ
して北原事務局長から基調提起の
なかで、二・一八青行隊の石井新二氏は「動労千葉
反対同盟と動労千葉の共催での三
里塚ジェット燃料貨物輸送延長阻止
一・二四総決起集会が、会場の千
葉市民会館に、三四〇〇名の労働
者人民の結集のもと、決戦前段集
会にふさわしい、高揚と熱氣のな
かでたたかいとられた。この総決
起集会の成功によつて、反対同盟
・動労千葉、全国からこの日千葉
に結集した全国の労働者人民のた
たかう意志は不動のものとなり、
三月三里塚ジェット闘争が、何ん
としてたたかわれなければならな
いかを鮮明とした。

集会は会場通路にまで参加者が
埋まるほど、文字通り密集した雰
囲気のなかで開始され

た。司会あいさつ、開
会宣言に引きつづいて

主催者を代表して動労
千葉関川委員長は、「す
でに当局の布施組織部
長への解雇発令、延長
提示にたいし二波にわ
たる減産闘争をたたか
いぬいた。当局、革マ
ルの闘争破壊、組織破
壊攻撃を粉碎し、全
人民闘争勝利、三里塚
二期着工阻止の水路を
ジェット闘争勝利から
切りひらいていく」
とたたかう決意がのべ
られた。つづいて反対
同盟を代表して石橋委
員長代行は政府公団の
今秋の、C滑走路着工
策動にたいし、断固と

の死刑執行阻止／姜鍾健氏の完全釈放をかちとろう！」の七八時間緊急ハンスト行動、一月二三日の最終審死刑判決一無期刑措置を彈劾する緊急抗議情宣、二四日の終日座りこみ行動という一連の全京都的行動が組織されたたかいぬか

二月十二日、府立大学において、全政治犯即時釈放／日韓連帯／講演集会をもち、今後のたたかいの

れてきた。

燃えあがつた日韓連帯を真に求めるこの烽火は決して消え去つてはいなし、消させてはならない。レベルでの日韓連帯闘争の停滞を打破せよ！」「死を賭して英雄的に闘つた光州蜂起に連帯し、今こそ全政治犯釈放／日帝の対韓新植

方向を真剣に討議しあつた彼ら学生の「金大中氏救出運動が一旦結着するなかで生じている全国民的流れを積極的に支持し、日帝の侵略反対し、社共排外主義をこえる八〇年代日韓闘争の前進のためにたかおう。

「一人の死者も出すな！」

第11回 釜ヶ崎越冬闘争・報告

今年もまた全国の「寄せ場」で越冬闘争が果敢にたたかいぬかれた。山谷で、寿で、笹島で。そして、大阪の釜ヶ崎の地において。われわれ「越冬を闘う会」は七年から釜ヶ崎越冬闘争に参加し今回三回目の越冬闘争に参加した。「冬地獄をふきとばし、一人の死者も出すな！」。冬の寒さと飢えの危機から労働者の生命を防衛し階層をこえた労働者の団結をきずきあげるべく、わが「越冬を闘う会」は短期間ではあつたが、のべ二五名の労働者、学生を組織し、年末年始の二週間を精力的にたたかいぬいた。

第十一回釜ヶ崎越冬闘争は、例年のごとく前段での「支援連帶集会」を皮切りに、十二月二十五日から開始された。朝昼夜一日三回の恒例の団結もつつき大会、四日には、二日には、二日には、

たき出し、医療券の発行と医療センターでの治療、市更相との闘争、夜の医療センターの下でのフトン敷き（泊まる所がない労働者に越夜の医療センターへの糾弾闘争などがたたかいぬかれた。一月二十九日、夜十時のパトロール。また臨時宿泊所

1・31～2・1 越冬を闘う会

第5回 全国労働者討論集会 2000人が結集 大阪

さる一月三一日から二日間にわたり、大阪において第五回全国労働者討論集会が、約二千名の労働者を結集して開催された。今回の全国集会は「右翼的労戦統一」に対し階級的労働運動のうねりを

さる二月一二日、総理府後援によって成立させられた「建国記念日奉祝式典」の催の「建国記念の日奉祝式典」

第一日目の全体集会、パネルディスカッション、夜の産別交流会、そして二日目の七つの分科会、総括集会をつらぬいて、労戦統一にたいする左派活動家の「立場と運動を明確にする」という観点から活発な討論がおこなわれた。

集会は「一つの潮流、一つの政治的組織的部隊として自らを打ち鍛えるために、大胆にその一步を今踏みだそう！」という決議文を採択して全日程を終えた。集会後、堀田ハガネ抗議デモが決行された。



炊き出し風景

文部省後援で「奉祝式典」

2・11「紀元節」

日帝＝鈴木体制の確立以後、戦争とファシズム準備が、安保・自衛隊強化、改憲攻撃、労働運動の産業報国会化を軸に、一挙的におしすすめられている。これと結合してこんにち、天皇制イデオロギー攻撃を頂点にして、人民の国益・国防意識の形成にむけた策動がつよまり、民族排外主義育成の攻撃が強化されている。最近の愛国教育推進のキャンペーンや、社共をふくむ「超党派的取り組み」でおこなわれた二・七「北方領土の

天皇制イデオロギー攻撃許すな！」

「万世一系の天皇の統治する神國日本の赤子」として民族排

